

ビオトープだより第39号

会員・BAより ビオトープに関する情報を提供します。



特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会

<https://www.biotope.gr.jp/>

1. 放棄されて10年以上、実家の里山の手入れ

副会長、北海道・東北地区委員長、主席BA、(株)エコリス 佐竹一秀

屋敷林・境界林の伐採、ついでに廃屋撤去

ビオトープだより36号で実家の里山近くのスギ林の伐採を報告しました。今回は我が家の屋敷林、境界林の伐採、そして廃屋の撤去について報告します。近くスギ林伐採が入ったので、その延長上に我が家の屋敷林・及び境界林も伐採してもらうことにしました。廃屋撤去も行う業者でしたので、併せて廃屋も撤去してもらいました。

左下の写真は、西側のスギ伐採地から我が家方向を撮影したものです。中央の家屋（廃屋）を囲むようにスギ、ヒノキの屋敷林があります。廃屋解体・屋敷林伐採後の同じアングルの写真が右下の写真です。伐採による裸地が広がっており、廃屋までの笹藪も搬出のため刈られ、ため池に覆いかぶさっていたヤナギ等の樹林も切れ、スッキリしました。人間の力（重機の力）は偉大です。

人里離れた静かな場所だったが、廃屋撤去、屋敷林の伐採と整地、そして境界林伐採のために搬出用の道路が作られ、緑がはぎとられ、赤茶色の土がむき出しになりました。荒廃していた里山ですが、緑が少なくなると、落ち着きません。緑は大事です。



記念樹（約65年前に植えた杉）

廃屋は放置できませんし、屋敷林・境界林も大きくなり過ぎたので倒木の危険もあり、いずれは伐採するつもりでした。負の遺産？を後世に残すよりは、自分の時代でケリをつけられ、終活の一つが片付いたと思っています。

屋敷林・境界林については全て伐採することで、業者と話をしていました。ただ入植当時祖父と父親がどのような気持ちで屋敷林・境界林を植えたのか？と、思いを巡らせると、皆伐は出来ませんでした。そこで記念樹として1本だけ残すことにしました。私とほぼ同年齢（65歳）です。樹齢1,000年超のスギはざらにありますので、これからの世界を見続けられると思うと羨ましくもあります。



参考写真

西側のスギ植林、我が家の屋敷林・境界林の伐採、廃屋（我が家）撤去の前後の写真。
緑豊かな里山が改変されました。（左側は R5.6.11 撮影、右側は R5.10.28 撮影）



参考写真

我が家（廃屋）の撤去直前の写真と撤去後（屋敷林伐採後）の上空からの写真。
東日本大震災では震度 6 弱でした。瓦屋根で重かったはずですが、倒壊しませんでした。



参考写真

境界林（スギ林）の伐採直前及び伐採後の写真。

